

まちひとしごと

Vol. 67

さくら長寿会

久保 登美子 さん

いつまでも元気で 生きがいのある暮らしを



町

内で活動する老人クラブの
ひとつに「さくら長寿会」

がある。さくら長寿会はいつまでも元気で生きがいのある生活を目指して昭和55年の設立から45年以上活動を続けている。現在も36名の会員がおり、長年、班長を務める久保登美子さんにお話を聞いた。

—さくら長寿会ではどのような活動をされているのですか。

「さくら長寿会では、パークゴルフや会員のお誕生日会など、みんなで集まってお話したり、歌を歌ったり、にぎやかに年4回ほど行っています。毎回みんなで集ま

ることを楽しみにしていて、お互いの元気な姿を見せあえるように、毎日を過ごしています。」

—久保さんはさくら長寿会の一員として、現在は班長として長い間活動をされてきたと思いますが、その中でもっとも印象深いことは何ですか。

「今はやらなくなっちゃってしまいましたが、しめ縄作りが一番に残っています。夏になると会員のみんなとしめ縄の材料になるスゲという草を探しに行き、草を刈り取りするところから始めていました。秋になると南地域会館に集まり、しっかりと乾燥させたスゲを束ねてしめ縄を編み、飾り付けしたものを販売していました。その日に作業できる人たちが集まって、一緒にお昼ごはんを作って食べ、お話をしながら楽しく作業を進めていたことが、今でもいい思い出です。」

—今、久保さんがこれまでの活動を通じて感じていることは。

「私は60年以上、俱知安町に住んでいるのですが、昔と比べて俱知安町は大きく変化しています。外国の方が増えたことによって生じる言葉の壁などは、向き合っていかなければならないことだと考

えています。しかし、俱知安町が住みやすい町だということは昔から変わりません。これまでのさくら長寿会での活動では私自身が車を運転して会員の送迎をすることが多く、活動を行う原動力になっていたましたが、80歳を機に運転免許証を返納しました。それでも交通機関を利用しながら、会の活動や趣味の山菜採りを楽しむことができ、年齢を重ねても安心して過ごせる町です。これからもみんなが生きがいのある生活を送ることができるよう暮らしやすい町であってほしいと思っています。」

長年俱知安町で暮らし、さまざまな活動に関わり、変わりつつある町を感じ、変わらない良さ、そして、変わる良さを素直にとらえる久保さんの原動力は今でも変わらない。終始さわやかな笑顔で語ってくれた久保さんのように、楽しみながら豊富な経験を積み重ねることがいつまでも元気で生きがいを持って暮らしていく秘訣なのかもしれない。

※まちひとしごとは不定期連載です